

2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 2 月 18 日

|            |                           |              |     |                               |       |
|------------|---------------------------|--------------|-----|-------------------------------|-------|
| 所属         | 人間社会学部                    | 職名           | 准教授 | 氏 名                           | 藤井 紘司 |
| 研究課題       | 離島の観光危機管理をめぐるコミュニティ分析     |              |     |                               |       |
| 研究キーワード    | 離島、観光危機管理、地域コミュニティ、平準化の原理 | 当年度計画に対する達成度 |     | 2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた |       |
| 関連するSDGs項目 | 11. 住み続けられるまちづくりを         | 該当なし         |     | 該当なし                          | 該当なし  |

1. 研究成果の概要

本研究は、観光依存度を高めてきた小規模島しょ部の地域コミュニティを対象とし、「平準化の原理」の側面から観光危機管理の方策を検討することを目的とする。少人口や遠隔性等の脆弱性を抱える離島は、伝統的に、不平等のベクトルを平等へと引き戻す「平準化の原理」といえる生活規範を特徴としてきた。こうした離島において、災害・事故等の発生による危機や風評被害、観光公害等の観光客の過多／過少によって被る観光のインパクトは、地域社会内で局地化する傾向にあり、「平準化の原理」を大きく揺るがす契機となっている。これらの状況下にあって、離島コミュニティは観光による地域社会内のリスクや負荷の偏在性に対し、いかなる方策を講じてきたのであろうか。本研究では、「平準化の原理」の側面から離島コミュニティによる観光危機を回避／緩和する方策や生活知を解明し、持続可能な観光に資する観光危機管理の島しょモデルを提示することを目標とする。

2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)  
【著書・論文(査読なし)】

藤井紘司(2024)『隆起サンゴ礁島の環境史：沖縄・八重山諸島の地域コミュニティと土地制度』南方新社

藤井紘司(2024)「沖縄ジュゴンの誕生：民俗学のパースペクティブ」『環境と公害：自然と人間の共生を求めて』 54(2) 59-62

【学会発表等】

・「沖縄の自然・文化と基地」、自然の権利科研：研究会、2024 年 7 月、オンライン

3. 主な経費

・フィールドワーク及び関連書籍の購入など

4. その他の特筆すべき事項(表彰、研究資金の受入状況等)

① 離島の観光危機管理をめぐるコミュニティ分析

日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 2021 年 4 月 - 2025 年 3 月

藤井 紘司

② 隆起サンゴ礁島の環境史：沖縄・八重山諸島の地域コミュニティと土地制度

日本学術振興会 科学研究費助成事業 研究成果公開促進費（学術図書） 2024 年 4 月 - 2025 年 3 月

藤井 紘司

③ 原爆遺産としての〈いきもの〉の社会学的研究：被爆樹木が編む「記憶の場」の可能性

旭硝子財団 サステイナブルな未来への研究助成（提案研究コース） 2024 年 4 月 - 2026 年 3 月

藤井 紘司

【その他の活動】

- ・ 日本観光研究学会, 学術委員会
- ・ 環境社会学会, 国際交流委員会
- ・ 日本村落研究学会, ジャーナル編集委員会
- ・ 日本村落研究学会, 研究委員会

(本文は 2 ページ以内 にまとめること)